



発行所 館民館
編集 館民館
印刷所 館民館
製版 館民館
新田商工会館内

人口 5501
男子 2625
女子 2876
世帯数 1411
(10月1日現在)

「おらが村は文化村」

雨情、竜丘に熱い心

竜丘公民館では、昨年開校した「竜丘市民大学」を今年も引き続き開いた。夏期講座は八月下旬、それぞれのテーマ・講師により三日間開設され、多くの方が受講された。伝統を生かし文化の香り高い郷土づくりの原点を知る意味で「竜丘村を考ふる」のメインテーマは昨年同様今年も変わらない。当地区に係る歴史・文化について有識者の講演と公民館の市民大学に取り組み姿勢は、地区内外から注目され、好ましい評価を受けている。

第二回竜丘市民大学講座は去る八月二十五、二十七日の三日間開設された。受講者は延べ三百三十人で、全講義を受講された四十人の方に修了証書が授与された。初日は「島の歴史と天竜川水防史」と題して、時又島地籍在住の今村定男氏の講義があった。川路「島」地籍が記録に登場した天正六年（一五七八年）から昭和四十三年の字境変更まで時又区に編入されるまでの歴史を、天竜川の堰切工事員暮ヶ淵の埋立、水害、水防工事、境界争い等の問題に触れて話された。

二日目は「竜丘に残る民間信仰と民俗芸能」と題して郷土史家の村沢武夫先生の講義があった。長野原のお日待ち、島の祇園祭り、駄料の獅子、桐林の人形、虫送り等について話された。又自分の生立ちや郷土史研究をはじめたいきさつ等にも触れられた。

最終日は「父雨情とその文学―雨情と竜丘のかかわり―」と題して、野口雨情の令息である野口存弥先生の講演があった。ご存じのとおり、野口雨情が作曲家中山晋平と竜丘小学校へ指導にこられたのは大正十二年四月のことです。「童謡」の作り方の指導を

された。雑誌「文章クラブ」のアンケートの中で、私の好む土地として信州天竜峡をあげている。竜丘へ来た時の自然の美しさ、教育の熱心さ、新しさ、人々のあたたかい心づかいに感激した。たかを示すもので、飯田あつた。もっと若い人の参加も得てさらにこの講座が充実定着されることが期待されている。



2回竜丘市民大学講座
父雨情とその文学
雨情と竜丘のかかわり
野口存弥氏

若い衆には負けん!!

十月十日に竜丘小学校の体育館で、敬老会が開かれた。会場には、満七十七歳以上のお年寄り、二百六十余名が、朝早くから集まった。午前中は、来賓の挨拶、祝辞などの式典から始まり、小学生による作文朗読、続いて松川町の大沢茂男さん（五十六歳）による「農業の余暇と人生への挑戦」と題する講演があった。

午後には余興で、駄料、長野原、上川路、桐林、時又の各部落から合わせて十の民踊クラブのみなさんによる踊りが盛大にくりひろげられた。他に時又保育園の園児による鼓笛演奏があるなど、趣向がこらされた催しであった。このうち、大

沢さんは、農業（果樹）の暇な時期に世界中を旅行した。会場には、満七十七歳以上のお年寄り、二百六十余名が、朝早くから集まった。午前中は、来賓の挨拶、祝辞などの式典から始まり、小学生による作文朗読、続いて松川町の大沢茂男さん（五十六歳）による「農業の余暇と人生への挑戦」と題する講演があった。

隣りも笑顔で農作業

作物対策協議会できる

現在竜丘地区では養蚕、水稲、果樹、畜産、野菜等様々な形態で農業が営まれています。しかし桑園の横に果樹園や作物畑が在るなど、作目が点在している為、農薬等による相互の被害、事故が発生し、その為のトラブルが絶えません。そこで去る八月二十九日に、竜丘地区の農業委員、農協役員、自治会、養蚕、畜産、果樹、野菜農家の代表等二十二名が集まり「飯田市竜丘地区農作物栽培対策協議会」（会長、今村長穂）を発足しました。この協議会では、農業振興を推進する中で競合する農作物、畜産等の協調を図り、相互の振興を推進し合理的な発展を図る事を目的に、当面は農薬等による公害、事故の事前防止、及びそれらによって起こる紛争の解決を図っていくこととされています。

公民館研修旅行記

竜丘公民館の研修旅行が、去る九月二十二、二十三日の二日間の日程で行われました。今回は大阪、神戸方面に計画され、委員は皆参加するようにとのお話でしたので、私も参加させて頂きました。見学場所は、万国博会場跡に記念公園として変身し

二十才の重みを...

高校を卒業し就職したとも尊いものに感じられ、これからは社会人なので遊んではいられない、ちやんと責任を持って仕事をしなくてはならない、二十歳になったといって学生気分が抜け切らないまま、何をしても良いのかまだ一年半経ちました。八月に成人式がありその時まだまだだっただけの感じがあつたけど、九月に誕生日を迎え、今度県知事、飯田市長選があり、選挙権が周りの人達は二十歳としてろうと責任を持たなくてはならないので、余計何をしたいのかと感ずる事もありました。そんな時、私も自分に問いかけ、考えていきたいと思つてはいますが、は私なんだと思つたけれど、行きたいと思つています。

事故の未然防止を呼びかけたいと予定ですが、協議会のお世話になる前に農家同志で充分話し合い、お互いの妥協点を見出し、お互いに行っていく為に必要ではないでしょうか。協議会の発足を期に、今一度「相互の協調の中からこそお互いの経営の発展がある」事を確認し合い、共に竜丘の農業発展に努めていきたいと思います。

マに出た風見鶏の館も見事な出来事でした。異人館街は歩いて見学しました。次にポートタワーに登りました。タワーの高さ一〇八米、回転式の展望台から外国船の多い港と市街を見下ろし、国際港博物館も見学しました。展望台食堂で昼食をすませて、六甲山にロープウェイで頂上まで行きました。外国名のついたハイウェイが頂上をうねり、眼下にはたくさんのお

動物や大勢の人達で賑わい、各人が一時の憩いの時を求めているのを感じました。公民館の研修旅行はいつも連れて行って頂くのですが、多くの方々の参加を希望しても、それぞれの仕事の都合で出かける方が多くあります。楽しみながら何か一つでも自分に得るものを吸収出来たらと思います。

大阪・神戸に「初見参」

たうちの、国際民族学博物館を主体としたものでした。車中の研修で見学時間と場所等の説明を聞きながら行くうちに、私達の車の前方に、あの六千四百万人の人が入場し、最もユニークな建物として注目を浴びた太陽の塔が、大阪の空にその姿を現わし私達を迎えてくれました。まづ私達はその中の民族学博物館の見学に入りました。世界各国の民族の古くから使用された生活必需品、衣装等私達の想像もつかないような多くのものが陳列されました。さすがと感心させられました。限られた時間で他の館を見学する事が思うように出来ず、日本庭園の中の千里庵という茶室で抹茶を頂き、心を残しながら万博会場跡を後にしました。夜は六甲荘に宿泊して翌日神戸市内の異人館めぐりをしました。神戸は坂の多い所でした。NHKの連続ドラマ



公民館研修旅行メンバーの集合写真

ヤブ蚊

台風一過。空はどこまでも青く柿は赤色を増している。すれ違ふ人の顔は、心なしかあごを空に向け喜々として輝いて見える。今年の天候不順に泣いた顔は、空の青さを満面にうけ、心の底から湧き出るうれしさを隠しきれないでいる。人は空の青さに耐えきれないように目を落とす。男は誰か後から突かれたように背中を丸めて歩き出す。その顔からはもはや笑みは消えている。男の顔を雲らせたのは何だろうか。何故、彼はズボンから手を出して、胸を張って歩かないんだらう。私もあんな後姿をして

いるんだらうか。男の前を奇麗に着飾った婦人が、ポケットに手をつ込んで歩いて来る。男が小石につまづいてよろけるのに驚いて立ち止まったかと思うと、フンと鼻でせせら笑うように、よりいっそう鼻を上に向けて歩き出す。女の横を走らないのに警笛を鳴らしながら、昨夜の雨を蹴散らしてダンブが飛んで行く。何故、男に声をかけてやらないんだらう。何故、そんなに急ぐんだらう。ダンブが消えた向こうから、子供達がキャッキヤ言いながら駆けてくる。何がそんなにおかしいんだらう。何故、あんなに顔が光っているんだらう。女の子にこづかれて、男の子が転んだかと思うと、ワァッと泣き出した女の子が男の子の服の汚れを手で払いのけ、しきりに男の子の顔をすまなそうにのぞき込んでいます。それを見て、私はホッとすると共に、ハッと胸を突かれた。そうだ！私も道で転んだら大声で泣こう。手をポケットから出して、胸を張って大股で歩こう。そして道行く人々に、心から「こんにちわ」と言おう。だって、心の鍵だけはかけたくないから。そして私はペダルを一杯踏み出した。

偶数日が竜丘

— 念願のグラウンド完成 —

信夫(しのぶ)グラウンドが、いよいよ使用できる様になりました。

信夫グラウンドは、吉川プラントを天竜川へ向け入った河川敷のグラウンドです。(地図参照)

当初、時又灯ろう流しの駐車場不足解消のため拡張された河川敷の有効利用です。

この河川敷がグラウンドとして利用できるまでには、自治会、公民館の積極的な働きかけと、川路水防組合、飯田市、建設省、砂利組合等の幅広い理解と協力があって実現される運びとなった訳です。

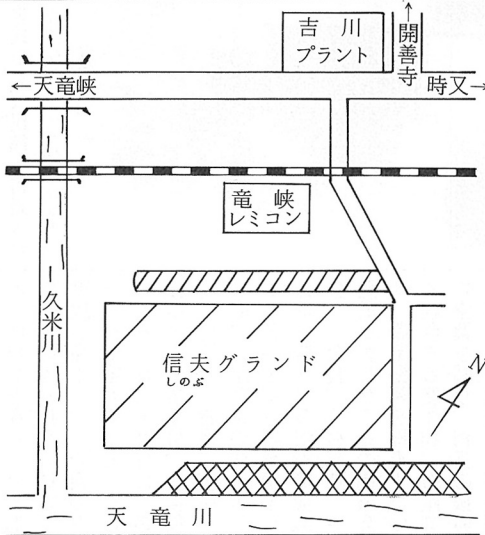
その反映とも言えます。去る十月十八日にはグラウンドの整備、看板立てを行ない、合わせて川路地区とソフトボールの親善試合を行ないました。

グラウンドの使用については、毎月奇数日が川路、偶数日が竜丘と決定されました。申込等、窓口は公民館です。

みなさん大いに利用しましょう。

ソフトボール、ゲートボール等スポーツはもちろん夏には子供連の水遊び、魚取りを兼ねた遊び場等にこんな企画も良いのでは無いでしょうか。

大いに利用する中から、更にグラウンドの充実に向けて声を大きく盛り上げていきましょう。



厳粛な中に奉仕の汗

日赤奉仕団 修学院離宮の清掃奉仕から

竜丘日赤奉仕団は去る十月二十日から二十二日まで京都修学院離宮の清掃奉仕に行っていました。

参加人員四十四名、第一日目京都の高尾高山寺、仁徳寺、竜安寺、大徳寺の方丈庭園を拝し飯田を知っておられる方丈さん(九十二歳)に握手をして載き、そ宮へ九時に正門に着き、人員の点検、注意事項を聞き

宿は京古風な作りで家庭的な事が何よりでした。二十一日朝白エプロンに身を包み、一路バスにて離宮へ九時に正門に着き、人員の点検、注意事項を聞き

駄科諏訪社神殿が新築され、十月五・六日秋の祭典が行なわれた。五日には、北平の屋台が八年ぶりに出て区内を廻った。小学生の女の子を含む16人の踊り子・他合わせて90名が参加した。昨年、保存会(市瀬正美会長)が発足し、衣装は新調され、屋台も修善された。



これぞ「夢想神伝流」

グループ紹介

異気象とかで、例年より肌寒く感じられる十月の初めの夜、竜丘小学校の広い体育館の中で稽古に着いた人達、稽古に静かに刀を振って、今回のグループ紹介は、竜丘剣道クラブ居合道部をお訪ねしました。

居合道とは表裏一体のものであり、仮想の敵をもって型を習うので、一人でも練習ができるということです。居合道も、他の武道と同じく、礼に始まり、礼に終わる武道であり、身心の鍛錬と、精神の集中力を養う事ができる。

この居合道は、男女、年齢の区別なく、誰にでもできる武道であり、ぜひ一人でも多くの方の参加を強く望んでいます。



居合道部の方々が、静寂の中で日本刀を振りおろしている様子を見ていると、何か、日本武道の素晴らしさを見ている様でした。

激戦！ 女子バレー

八月二十二日より小学校体育館において「竜丘女子バレーボールリーグ戦」が行なわれている。これは、本年度竜丘公民館事業計画の中の「女性のスポーツ人口の拡大」という基本計画にそって始められた、新しい活動です。

部活チーム、各種団体チーム合わせて九チーム、総勢一六二名という人々を集めたリーグ戦、技術、年齢など気にせず楽しい雰囲気の中に進められている。

この先、参加者相互の親睦、体力増進に結びつき、より明るく楽しい生活が送られるよう期待される。

鉛筆について

芸術の秋、今回で八回連続展覧会を開催した時又、島の関守穂さんを訪ねた。

玄関に向くと、「山羊種付所」の看板が目につく。「日本画家」という片書の名刺をいただき、アトリエでお話を伺った。

入選作品は「朝やけ」と題し、早朝、国道久米川橋から、田植後の復旧田を見て「朝焼けが素晴らしい」とスケッチブックに向かったという。また、五月には飯伊地区の美術家による南信美術会に於いて、見事金賞を受賞された。これは、昨年孫と西浦へ行った時の風景で、アトリエ内で一番大きく、目を引く。

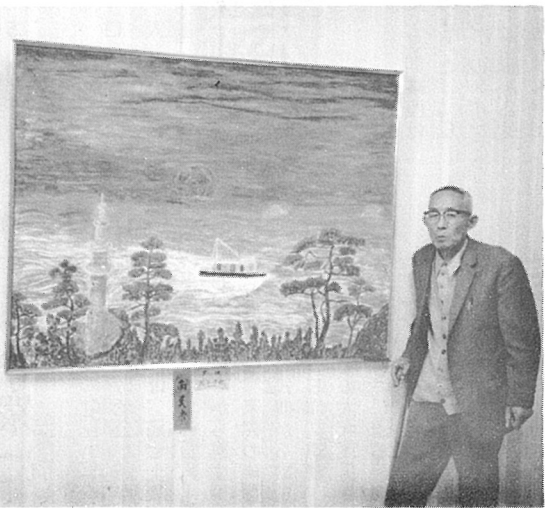
描き始めた時は「十四年

画は楽し!!

時又 関守穂さん

小木曾山先生に習い、本を新しい事をやってみては失敗格的な日本画を始められたし、最後に画が残った」と画家であり、看板通り地奥さん。「画は楽しい、夜中でも気が向けば描く」と関守穂さん。

第一回展覧会「夕映種付している。これは、小えの古館」複製は公民館二階に寄贈されてある。その



(南信美術賞の「夕映」と共に)

野球 熱戦終る

●盆常会対抗野球大会

優勝 長野原第二常会

準優勝 桐林東常会

三位 時又第一常会

桐林中央常会

●夜間ソフトボールリーグ

(男子の部) 一位時又 ウェスタンス・二位久保尻クラブ・三位弘法様・四位長野原クラブ・五位鈴岡クラブ・六位親和会・七位青年会・八位東常会・九位駄科

あの人

(七月三十一日～十月十四日)

◎永遠に幸あれ

増田 孝 駄科

仁科 敏子 鼎町より

●伸びよ健やかに

氏名 部落 父名

伊藤 健一 時 和良

熊谷加奈子 駄科 利治

加藤 玄 時 隆

下平 友子 駄科 孝雄

熊谷 剛 時 健治

杉山 歩 時 善一

小林 佳織 時 善人

編集後記

バイナリーの音が、脱殻機の音に変わり、実りの秋から季節はやがて風花の舞う頃へと移り変わります。五十五年度の公民館活動も早半ばを過ぎました。前半の活動を顧みて、皆さん方々に感じるものがあると思えます。館報第一六二号が出来上がりました。お届けいたします。秋の夜長に御家族揃って是非お読み下さい。不十分な点が多いと思えますので、御意見等ありましたらお聞かせ下さい。